

CASBEE神戸ver.4

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2024年版 使用評価ソフト: CASBEE神戸ver.4CASBEE-SD_NC_2024_v1.22

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	兵庫県生田警察署解体撤去及び庁舎棟建築	階数	地上9階
建設地	神戸市中央区中山手通2丁目2番3	構造	S造
用途地域	市街化区域、商業・防火地域	平均居住人員	337人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	事務所・工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2030年11月 予定	評価の実施日	2026年3月31日
敷地面積	2,164㎡	作成者	(株)内藤建築事務所 浪江明弘
建築面積	1,689㎡	確認日	
延床面積	8,554㎡	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ホールライフカーボン (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p>BEE = 0.7</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★</p>	<p>30%: ☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆ 80%: ☆☆☆ 100%: ☆☆ 100%超: ☆</p> <p>標準計算</p> <ul style="list-style-type: none"> 建設: 100% 修繕・更新・解体: 77% 運用: 77% リサイクル: 77% リペア: 77% <p>このグラフはLR3.1「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたWLC排出量の目安で示したものです。④は参考として運用分をBEI+で表示しています。</p>	

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
Q 環境品質		
<p>Q1 室内環境</p> <p>Q1のスコア= 2.8</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>Q2のスコア= 2.9</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>Q3のスコア= 1.7</p>

LR 環境負荷低減性		
LRのスコア= 2.9		
<p>LR1 エネルギー</p> <p>LR1のスコア= 2.5</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>LR2のスコア= 3.1</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>LR3のスコア= 3.1</p>

3 CASBEE神戸の重要項目		
<p>バリアフリー計画</p> <p>Q-2/1.1.3 バリアフリー計画</p> <p>3.0</p>	<p>建築物の耐震性等</p> <p>Q-2/2.1 耐震・免震・制震・制振</p> <p>3.0</p> <p>Q-2/2.4 信頼性</p> <p>3.4</p>	<p>まちなみ・景観への配慮</p> <p>Q-3/2. まちなみ・景観への配慮</p> <p>1.0</p>
<p>配慮の概要</p> <p>配慮の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> 節水型便器の採用 中水の利用 緊急排水層の設置 		
<p>その他の配慮事項</p>		

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ホールライフカーボン(WLC)」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の温室効果ガス排出量のこと。ここでは、建築物の寿命年数で除した年間温室効果ガス排出量で表示。
 ■評価対象のWLC排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2024年版
兵庫県生田警察署解体撤去及び庁舎棟建築工事

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2024年版

■評価ソフト: CASBEE神戸ver.4/CASBEE-BD_NC_2024_v1.1

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質								2.5
Q1 室内環境								2.8
1 音環境		3.0	0.15					3.0
1.1 室内騒音レベル	—	3.0	0.40					
1.2 遮音		3.0	0.40					
1 開口部遮音性能	—	3.0	0.60					
2 界壁遮音性能	—	3.0	0.40					
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)	—							
4 界床遮音性能(重量衝撃源)	—							
1.3 吸音	—	3.0	0.20					
2 温熱環境		2.6	0.35					2.6
2.1 室温制御		3.0	0.50					
1 室温	—	3.0	0.38					
2 外皮性能	—	3.0	0.25					
3 ゾーン別制御性	—	3.0	0.38					
2.2 湿度制御	—	1.0	0.20					
2.3 空調方式	—	3.0	0.30					
3 光・視環境		2.8	0.25					2.8
3.1 屋光利用		2.4	0.30					
1 屋光率	—	2.0	0.60					
2 方位別開口	—							
3 屋光利用設備	—	3.0	0.40					
3.2 グレア対策		3.0	0.30					
1 屋光制御	—	3.0	1.00					
3.3 照度	—	3.0	0.15					
3.4 照明制御	—	3.0	0.25					
4 空気質環境		3.1	0.25					3.1
4.1 発生源対策		4.0	0.50					
1 化学汚染物質	ほぼ全面的にF☆☆☆☆の建材を採用	4.0	1.00					
4.2 換気		3.0	0.30					
1 換気量	—	3.0	0.33					
2 自然換気性能	—	3.0	0.33					
3 取り入れ外気への配慮	—	3.0	0.33					
4.3 運用管理		1.0	0.20					
1 CO ₂ の監視	—	1.0	0.50					
2 喫煙の制御	—	1.0	0.50					
Q2 サービス性能								2.9
1 機能性		2.8	0.40					2.8
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40					
1 広さ・収納性	—	3.0	0.33					
2 高度情報通信設備対応	—	3.0	0.33					
3 バリアフリー計画	—	3.0	0.33					
1.2 心理性・快適性		2.3	0.30					
1 広さ感・景観	—	3.0	0.33					
2 リフレッシュスペース	—	3.0	0.33					
3 内装計画	—	1.0	0.33					
1.3 維持管理		3.0	0.30					
1 維持管理に配慮した設計	—	3.0	0.50					
2 維持管理用機能の確保	—	3.0	0.50					
2 耐用性・信頼性		3.1	0.30					3.1
2.1 耐震・免震・制震・制振		3.0	0.50					
1 耐震性(建物のこわれにくさ)	—	3.0	0.80					
2 免震・制震・制振性能	—	3.0	0.20					
2.2 部品・部材の耐用年数		3.2	0.30					
1 躯体材料の耐用年数	—	3.0	0.20					
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	—	2.0	0.20					
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	—	3.0	0.10					
4 空調換気ダクトの更新必要間隔	—	3.0	0.10					
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	給・汚・雑排水全てに耐用年数の長い塩ビ管を使用	5.0	0.20					
6 主要設備機器の更新必要間隔	—	3.0	0.20					
2.4 信頼性		3.4	0.20					
1 空調・換気設備	—	3.0	0.20					
2 給排水・衛生設備	節水型の採用、緊急排水槽・中水槽の設置	4.0	0.20					
3 電気設備	—	3.0	0.20					
4 機械・配管支持方法	設計用水平震度KHを2.0以上としている	5.0	0.20					
5 通信・情報設備	—	2.0	0.20					

3 対応性・更新性			2.9	0.30	-	-	2.9
3.1 空間のゆとり			2.2	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	-	1.0	0.60	-	-	
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率が0.17	4.0	0.40	-	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30	-	-	
3.3 設備の更新性			3.4	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性	天井内配管のため仕上材を痛めることなく更新・修繕ができる	4.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性	-	3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性	-	3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性	天井内配管のため仕上材を痛めることなく更新・修繕ができる	5.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性	-	3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保	-	3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.31	-	-	1.7
1 生物環境の保全と創出			2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮			1.0	0.40	-	-	1.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.5	0.30	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮・快適性の向上			2.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	2.9
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	2.5
1 建物外皮の熱負荷抑制			2.6	0.20	-	-	2.6
2 自然エネルギー利用(直接利用)			3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化			2.8	0.50	-	-	2.8
集合住宅以外の評価			2.8	-	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4 効率的運用に向けた取組み			1.8	0.20	-	-	1.8
集合住宅以外の評価			1.8	1.00	-	-	
4.1	モニタリング	-	2.0	0.40	-	-	
4.2	運用管理体制	-	1.0	0.40	-	-	
4.3	非化石エネルギーの導入の拡大	-	3.0	0.10	-	-	
4.4	コミッションングの推進	-	3.0	0.10	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング	-	-	-	-	-	
4.2	運用管理体制	-	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.1
1 水資源保護			3.5	0.20	-	-	3.5
1.1 節水		自動水栓・節水型便器を採用	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.3	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無	-	3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無	中水の利用	4.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.0	0.60	-	-	3.0
2.1	材料使用量の削減	-	3.0	0.10	-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用	-	3.0	0.20	-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.20	-	-	
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.20	-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材	-	3.0	0.10	-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	-	3.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.20	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.70	-	-	
1	消火剤	-	-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	-	3.0	0.50	-	-	
3	冷媒	-	3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.1
1 地球温暖化への配慮		ホールライフカーボン排出率が77%	3.9	0.33	-	-	3.9
2 地域環境への配慮			2.1	0.33	-	-	2.1
2.1 大気汚染防止			-	-	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			2.0	0.67	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			2.5	0.33	-	-	
1	雨水排水負荷低減	-	3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制	-	3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	-	3.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制	-	1.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音	-	3.0	1.00	-	-	
2	振動	-	-	-	-	-	
3	悪臭	-	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制	-	3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制	-	-	-	-	-	
3	日照障害の抑制	-	3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			4.4	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	光害対策ガイドラインのチェック項目を過半数以上満たしている	5.0	0.70	-	-	
2	星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	-	3.0	0.30	-	-	